令和２年度　公共事業事後評価調書

１．事業説明シート

（区分）　国補　・　県単

事業名	中山間地域総合整備事業（国補）	事業箇所	笛吹市八代町	地区名	八代	事業主体	山梨県
（１）事業着手年度	H16年度	（２）事業期間	H16年度～H27年度	（３）完了後経過年数	5年	（４）総事業費	1,533百万円

（５）事業着手時点の課題・背景

本地区は、笛吹市八代町の御坂山地の北面に位置し、ももやぶどうを中心とした果樹産地である。

しかしながら、果樹栽培を営む農地は、傾斜地など生産条件が不利な中山間地が大半を占めており、栽培、出荷などの作業労力の負担が大きく効率性が悪いことやイノシシなどの野生獣の農地への侵入による食害が頻発したことで、営農意欲が減退し、将来的な農業の維持に不安を抱えていた地区である。

このため、区画整理、農道、用排水路などの農業生産基盤整備と併せて、鳥獣害防止施設の整備を行い、農作業の省力化、効率化に取り組み、営農条件の改善を図ることで、持続的な果樹産地の維持、発展につなげるとともに、農村地域の活性化を推進するため、豊かな地域資源を活用した農村公園等の整備を行うことで、本地区住民の憩いの場の創出、地域の活性化を図ることを目的に事業を実施した。

（６）事業着手時点で想定した整備目標・効果

□主要目標

〇中山間地域等の農村生活・生産機能の向上

□副次目標

〇集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上

〇農業用排水能力の向上

□副次効果

〇農地の保全

（７）整備内容（目標達成の方法）

・用排水路	（5路線）	L=	2,321m
・農道	（5路線）	L=	2,458m
・区画整理	（4箇所）	A=	8.3ha
・ため池		N=	1箇所
・鳥獣害防止施設		L=	11,446m
・農業集落道	（２路線）	L=	407m
・防火水槽		N=	11基
・用地整備	（1箇所）	A=	0.9ha
・農村公園	（1箇所）	A=	0.2ha

（８）事業位置図等

2.評価シート（1）

（1）事業貢献度　〈良・不良〉

（理由）

農道・用排水路等が整備されたことにより、農作物の生産性及び品質が向上し、営農条件が改善された。また、豊かな地域資源を活用した農村公園等の整備により、本地区住民の憩いの場が創出され、地域が活性化している。

①主要目標

指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等
面積あたり農業所得増加額	1,191千円/ha　※	1,336千円/ha
施設当たり生活環境施設受益者数	458人/箇所　※	466人/箇所
面積当たり農村公園受益者数	863人/千㎡　※	923人/千㎡
交流施設あたり利用者数	64人/日/施設　※	92人/日/施設

□評価

※　評価指標を当時設定していなかったため、今回算出。

・農業所得の増加額が、評価基準値1,322千円/haを上回っている。
・生活環境受益者数が、評価基準値245人/カ所を上回っている。
・農村公園受益者数が、評価基準値762人/千㎡を上回っている。
・交流施設当たり利用者数が、評価基準値65人/日/施設を上回っている。

②副次目標

指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等
全幅員4.0m以上道路延長率	0%	100%　※1
施設老朽度	1.00	0.47　※2
用排水能力向上率	1.79	1.79　※3

□評価

・事業の完成により2.8kmが幅員4.0m以上に改良され、幅員4.0m以上道路延長率が100%となった。
　※1　（全幅員4.0m以上道路延長率）＝（対象路線の全幅員4.0m以上の区間延長：2.8km）÷（対象路線の全体延長：2.8km）＝100%
・施設整備により耐用年数が向上しており、老朽度は改善されている。
　※2　(使用年数：14年)÷(既存施設の耐用年数：30年)＝0.47≦1.00
・施設整備により通水能力が向上しており、排水機能は改善されている。
　※3　（計画用排水能力：0.454㎥/s）÷（既存用排水能力：0.254㎥/s）＝1.79≧1.00

③副次効果

項目	内容
農地の保全	排水路の整備により、表土の流出が防止された。また、鳥獣害防止施設の整備により、農地が保全されている。

④その他の事業効果の発現状況

・鳥獣害防止施設の設置により、獣（イノシシ）の出没もなくなり、安心できる営農環境及び生活環境が整えられた。

（2）費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化　〈有・無〉

項目		着手時点	事後評価時点
総事業費		1,415　百万円	1,533　百万円
工期		H16～H21	H16～H27
経済効率性※1	評価基準年	H15	R2
	費用	864　百万円	1,141　百万円
	建設費	864　百万円	1,141　百万円
	便益	1,157　百万円	1,233　百万円
	作物生産効果	437　百万円	426　百万円
	品質向上効果	31　百万円	72　百万円
	走行経費節減効果	474　百万円	535　百万円
	その他　※2	215　百万円	200　百万円
	B／C　※3	1.3	1.1

※1　経済効果は、生産基盤整備を対象に算出している。
※2　その他は、維持管理費節減効果、営農経費節減効果。
※3　費用便益比（B/C）は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。

（要因変化の分析）

・総事業費：物価変動等による事業費の増。
・工　　期：区画整理にかかわる調整に日数を要したことによる工期の延長。

（3）事業実施による環境の変化

①自然環境への影響

・基盤整備の実施により、農作業の効率化など営農条件の改善がされたことで、耕作放棄地の発生防止につながり、地域の良好な自然環境が保たれている。

②生活・居住環境等への影響

・豊かな地域資源を活用した農村公園等の整備により、本地区住民の憩いの場が創出され、地域が活性化している。

③環境保全対策の効果発現状況（措置を講じた場合）

・なし

（4）社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響

①社会経済状況の変化

・なし

②関連計画・関連事業の状況の変化

・なし

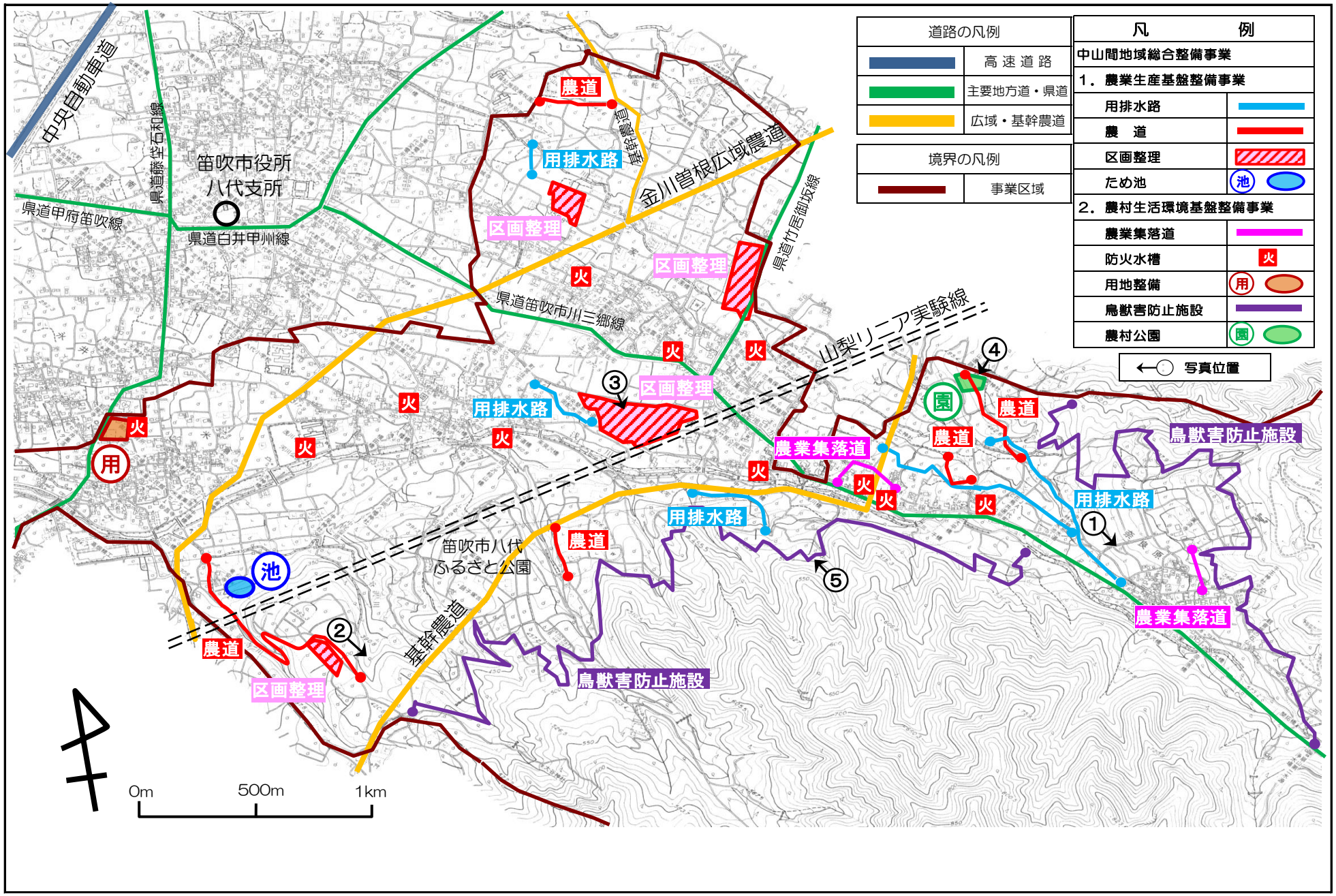
③事業環境等の変化

・なし

評価シート（２）

（５）今後の事後評価の必要性 〈有・(無)〉	（７）同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・(無)〉
（理由） 用排水路の整備により農地の浸食や排水不良に起因する減収防止、農道の整備により生産や流通にかかる輸送経費の削減やもも、ぶどうの荷痛み防止、区画整理による農作業の効率性の向上など、営農条件が改善がされたことにより、農産物の品質向上や労力の軽減、新たな担い手の確保など、持続的な果樹産地の維持、発展につながっている。 また、豊かな地域資源を活用した農村公園等の整備により、本地区住民の憩いの場が創出され、地域が活性化しているなど、十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。 □「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期：　　年度 ・方法：	（理由） ・なし （具体的反映策） ・なし
（６）本事業における改善措置の必要性 〈有・(無)〉	（８）事業評価手法の見直しの必要性 〈有・(無)〉
（理由） ・なし （具体的反映策） ・なし （既に実施した改善策の内容と効果） ・なし	（理由） ・なし （具体的反映策） ・なし **（９）その他特筆すべき事項 〈有・(無)〉** ・なし

3．添付資料シート（1）


中央自動車道
県道藤柴石和線
笛吹市役所
八代支所
県道甲府笛吹線
県道白井甲州線
農道
用排水路
基幹農道
金川曽根広域農道
区画整理
火
県道竹居御坂線
県道笛吹市川三郷線
山梨リニア実験線
用
池
園
農業集落道
鳥獣害防止施設
笛吹市八代
ふるさと公園
0m
500m
1km
道路の凡例
高 速 道 路
主要地方道・県道
広域・基幹農道
境界の凡例
事業区域
凡　　例
中山間地域総合整備事業
1．農業生産基盤整備事業
用排水路
農　道
区画整理
ため池
2．農村生活環境基盤整備事業
農業集落道
防火水槽
用地整備
鳥獣害防止施設
農村公園
写真位置

着工前
未整備のため、表土の浸食や排水不良が生じていた。

①用排水路

完成後
水路整備により、もも、ぶどうの生産性が向上するとともに、維持管理が大幅に軽減された。

着工前
農道の幅員が狭く、すれ違いができないため、通行に支障をきたしていた。

②農道

完成後
農耕車のほ場への乗り入れや、すれ違いが容易に行えるようになり、農作業の利便性が向上した。

着工前
狭小で不整形な区画のため、農作業に労力を要していた。

③区画整理

完成後
区画が整形され作業効率が向上し、営農条件が改善した。

④農村公園

桃の花の時期には、笛吹市桃源郷春まつりの散策コースとしても利用され、多くの人が訪れ賑わいを見せている。

⑤鳥獣害防止施設

シカ等による農作物被害が軽減され、耕作者の営農意欲が向上している。

近隣の農産物直売所

地区近隣の農産物直売所では、基盤整備により高品質な農産物の生産が可能となったことから、初夏から秋にかけてはもも等の果物が取り揃えられ、市内外から多くの人が訪れている。